

今月のトピックス

- | インフルエンザは減少傾向ですが、警報解除基準値(定点あたり 10.00)を依然として上回っています。
- | 麻しんの海外輸入例が首都圏で増加しています。
- | A 型肝炎の報告が増加しています。

全数把握の対象

【3 月期に報告された全数把握疾患】

A 型肝炎	2 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	5 件
アメーバ赤痢	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	8 件
急性脳炎	1 件	風しん	1 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件	麻しん	1 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件		

- 1 **A 型肝炎**: 2 件の報告がありました。どちらも経口感染が推定されており、直近の海外渡航歴はありませんでした。全国的に A 型肝炎の報告が増加しており、厚生労働省から注意喚起の[事務連絡](#)が出されています。報告の 7 割程は国内が推定または確定感染地域とされています([IDWR 2014 年第 7 号 <注目すべき感染症> 2014 年の A 型肝炎の増加](#))。国内での感染経路としては、魚介類の生食などによる経口感染や、性的接触などが報告されています。市内でも昨年は 4 件の報告でしたが、今年は既に 5 件報告(すべて直近の渡航歴は確認できていません。)されており、注意が必要です。
- 2 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 2 件の報告があり、1 件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 3 **急性脳炎**: 1 件の学童の報告があり、インフルエンザ AH1pdm09 が検出されています。
- 4 **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 1 件の古典型 CJD の報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。
- 5 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 30 歳代女性の報告が 1 件あり、血清型は A 群でした。感染原因感染経路は不明です。
- 6 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 3 件、AIDS 2 件の報告がありました。無症状病原体保有者では、2 件が国内での同性間性的接触による感染が推定されており、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。AIDS では、1 件が HIV 消耗性症候群を認め、国内での異性間性的接触による感染が推定されており、もう 1 件はカンジダ症(食道)、サイトメガロウイルス感染症と HIV 脳症を認め、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 8 件(幼児 1 件、成人 7 件)の報告がありました。そのうち、幼児 1 件(血清型 33 型)はワクチン接種歴が 3 回ありましたが、成人例 6 件(血清型 19 型 2 件、15 型、7 型、6 型、3 型、型別不能型それぞれ 1 件)ではワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。
- 8 **風しん**: 男性 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。風しんは従来 2 月～3 月の早春から初夏頃が流行時期なので今後の注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。
- 9 **麻しん**: 1 件の報告がありました。30 歳代女性で遺伝子型 D9(海外由来の麻しんウイルスのタイプ)が検出されていますが、海外渡航歴はありませんでした。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です(参考: [麻しん臨時情報](#))。麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種(1 回目: 1 歳以上 2 歳未満、2 回目: 5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切

な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

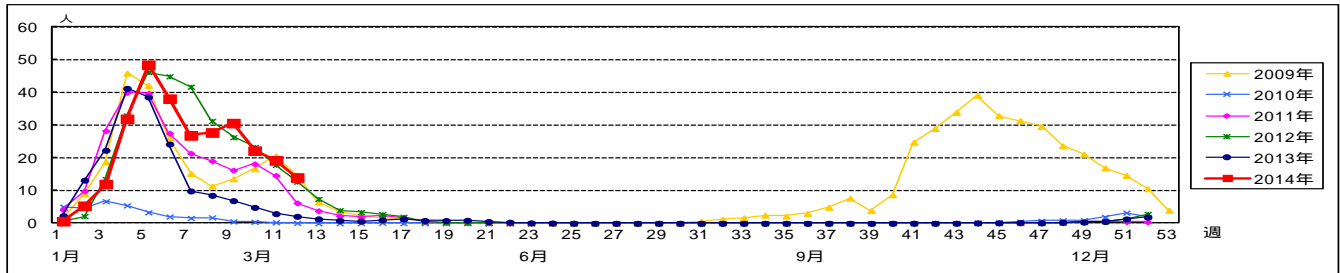
定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**:市全体の定点あたりの患者報告数は減少傾向で、第12週は14.01となりましたが、まだ警報解除基準値(10.00)を上回っています。第12週にはAH1pdm09型による急性脳症が報告されており、まだ注意が必要です。迅速キット結果報告ではB型が9割近くを占めていますが、衛生研究所で検出した結果では山形系統が多く検出されています。また、衛生研究所でAH1pdm09型の76株を検査したところ、耐性株(275Y)が1株みつかりました。北海道で地域流行していた株との関連については現在検査中です。

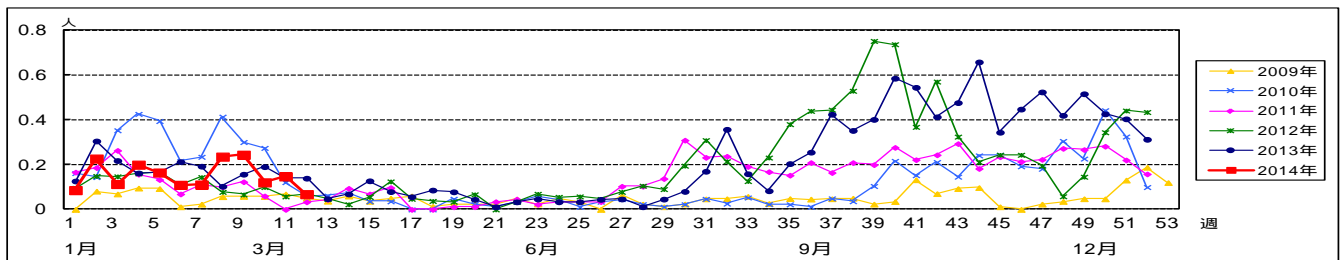
平成26年 週 - 月日対照表	
第9週	2月24日～3月2日
第10週	3月3日～9日
第11週	3月10日～16日
第12週	3月17日～23日

[横浜市インフルエンザ臨時情報](#) (衛生研究所)

[インフルエンザ予防チラシ](#) (横浜市)

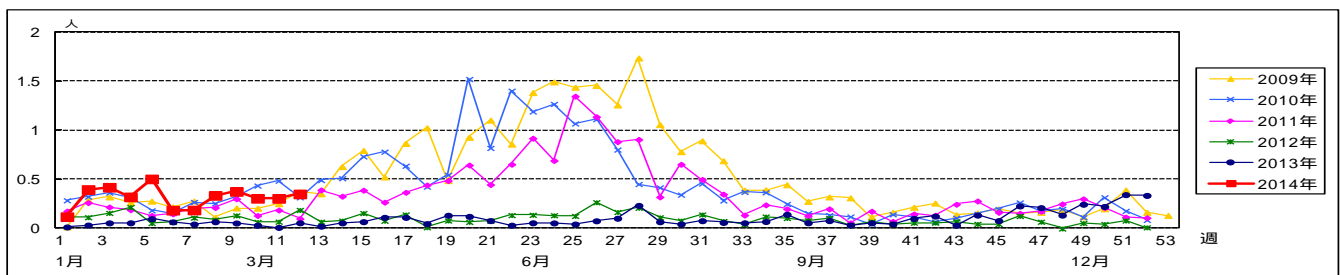


- 2 **RSウイルス感染症**:第12週は定点あたり0.07と、報告は落ち着いています。



- 3 **伝染性紅斑**:第12週は定点あたり0.35と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19(以下B19)感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

[伝染性紅斑について](#) (国立感染症研究所)



- 4 **性感染症**:2月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が23件、女性が0件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第9週0.25、第10週0.25、第11週0.75、第12週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第9週0.50、第10週0.00、第11週0.75、第12週0.00となっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:2月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>